

グリホサートの概要について

- 用途：除草剤（アミノ酸系）
除草剤として一年生雑草、多年生雑草、雑灌木まで幅広く雑草管理に使用される。
 - 国内登録状況
 - ・昭和55年に除草剤として農薬登録（グリホサートアンモニウム塩、グリホサートイソプロピルアミン塩、グリホサートトリメシウム塩などがある）。
 - ・毒物及び劇物取締法上の普通物に相当。
 - ・食品衛生法に基づく残留農薬基準が120種以上の作物に設定されている。
 - ・国内流通量は、平成17年度（平成16年10月～平成17年9月）では本成分を含む農薬製剤の出荷量は液剤が10,687.5キロリットル（農薬要覧）
 - 海外での登録状況
米国、EU、豪州等各国で登録されている
 - 毒性に関する知見
 - (1) 急性毒性（短期間の摂取で健康に悪影響を及ぼす）
LD₅₀（半数致死量）；>5,000 mg/kg体重（ラット、マウス）
ARfD^{*1}（急性参照量）；動物を用いた試験では急性毒性が低かったことから、
JMPRでは「設定不要」とされた。
(FAO/WHO合同残留農薬専門家会議(JMPR) 平成16年)
 - (2) 慢性毒性（食べ続けると健康に悪影響を及ぼす）
ADI^{*2}（許容一日摂取量）；1 mg/kg 体重/日
(FAO/WHO合同残留農薬専門家会議(JMPR) 平成16年)
- ※1；一時的に経口摂取しても健康に悪影響が出ない量
※2；毎日一生食べ続けても健康に悪影響が出ない量
- 中毒症状
グリホサートの毒性は比較的 low、製剤は一般に界面活性剤を含む製品として販売されていることから、界面活性剤の毒性も考慮する必要がある。
グリホサートイソプロピルアミン塩製剤の場合、界面活性剤の消化管刺激・腐食作用による嘔吐、下痢、腹痛等消化器症状が現れ、数時間から数日後に、腎障害、肝障害、中枢神経障害、低血圧、肺水腫が現れた例がある。
主たる症状は嘔吐、腹痛、下痢等の胃腸障害、咽頭痛、意識障害である。そのほか、頻脈、徐脈、顔面紅潮、瞳孔異常、筋肉痛など多様な症状が現われることがあるが、これらは界面活性剤による症状もしくはグリホサートと界面活性剤の相乗作用による症状と考えられている。

〈資料協力：（財）日本中毒情報センター〉